

税についての作文で

神崎中3年 宮崎 彩さんが

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞を受賞

を受賞

全国納税貯蓄組合連合会並びに国税庁が主催した中学生の「税についての作文」本町から作品を応募した神崎中学校3年の宮崎彩さんが、見事、東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞を受賞しました。また、坂田 朝花さんの作品が香取地方教育委員会連絡協議会長賞に、石橋 和也さん、宮崎 舞さん、大木 眞帆さんの作品が佐原税務署管内納税貯蓄連絡協議会優秀賞に入賞しました。

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞を受賞しました宮崎彩さんの作文を紹介します。



『暮らしになじむ税金』

神崎中学校3年

宮崎 彩さん

消費税増税の話題を最近よく耳にします。しかし、私の生活が税金によって助けられているという実感が正直あまり無かったので、税金とはどういうものなのか、改めて考えました。私の暮らしは両親が支えてくれていると思っていました、実際、両親が支えてくれているのは事実です。だから学校で使う教科書も、両親が買ってくれているものだと思います。それが、税金によって無料で配布されている事を知り、感謝すべきものだと強く思いました。

ある日の休日、私は友人と遊ぶ約束をしていました。友人の家まで自転車で三十分かかります。普段なら母に送迎してもらっていますが、この日は平日で家には誰も

いません。自転車で行くにも、運が悪く雨が降り出しそうな天気でした。そこで「きらきら号」があることを思い出し、これを利用して無事に友人の家に行った経験があります。「きらきら号」とは、私が住む神崎町が運行する循環バスです。平成十七年四月から始まり、町役場を帰着点として三ルートあり、運賃は無料です。バスを運転するためには、当然ですが人件費、ガソリン代、バスの維持費等、たくさんの費用が必要ですが、これらのすべてには税金が使われています。

今回、利用したことで気づいたことがあります。それは、バスを利用していた人のほとんどが高齢者で、若い人たちはあまりいませんでした。自分で車を運転できる人や、家族に送迎をお願いできる人は、普段の生活に不便を感じていないと思いますが、そういう人ばかりではないということです。買い物に行く、病院や銀行に行く、何気ない生活も車がなければ一苦労です。そういう現状から町民の足となる循環バスが税金により運行された事を知りました。このおかげで以前より不便さが解消され、

地域の人々が望む生きた税金の使われ方があるのだと思いました。

私には、九五歳になる曾祖母がいます。とても元気で笑顔を絶やしません。曾祖母は週に三回デイサービスを利用しています。介護度に応じて受けられるサービス内容は変わりますが、一割が自己負担で、残りの九割が税金で賄われているそうです。施設利用費、自宅では難しい入浴のお世話、トイレの見守りや時には外食の引率、更に毎回の送迎まで行ってくれます。曾祖母は、デイサービスをとっても楽しみに毎日生活しています。困った時に助けてくれるものの多くは、税金に支えられている事を再確認できました。

来年四月には消費税が上がる予定です。税金の使い道が身近に感じることができた今は増税に賛成です。これから更に高齢化社会に突入するので、今の生活を将来も維持し、また質をよくするために、増税は必要不可欠です。私達も暮らしをより一層向上させ、生きた税金の使われ方となる事を信じしっかりと納税する大人になりたいと決意しました。